

9 学生募集に関する事項

ここ数年、経済不況が入試動向に大きく影響を与えており、国公立志向、地元志向、安全志向、資格志向といった傾向が引き続き顕著である。このような状況下において、有力私立大学を中心に、新学部開設や学部改組、キャンパス移転などの新たな施策を打ち出し、志願者の獲得を強化している。

本学においても、2011年度（2012年度入試）は、文学部臨床心理学科の開設、「史学科」を「歴史学科」、「国史学専攻」を「日本史学専攻」に名称変更するなど大きな動きがあり、近畿及び周辺の重点地区を中心に高校、塾・予備校訪問を精力的に行うとともに、各種メディアでの広告掲載と併せて大規模な募集活動を展開した。

また、受験生とその保護者、高校教員、塾・予備校関係者と直接接する機会であるオープンキャンパス、入試直前対策講座などのイベントを重視し、内容の充実に努めるとともに、入試情報サイトやメールマガジンの有効活用などによって参加促進をおこなった。

1 入学試験概要

主な入学試験として公募推薦入試、一般入試（A・B・C日程）、センター試験利用入試（前期・中期・後期募集）を実施した。

● 高得点科目重視方式の新設

文学部を除く文系学部においては、これまでの配点セレクト方式から入学試験当日の最高得点科目を自動的に2倍換算する高得点科目重視方式を新たに導入した。

なお、文学部、理工学部においては、現行の配点セレクト方式を踏襲した。

● 一般入学試験における併願制度の充実

併願制度の拡充を図るため、4年制文系学部においては、他学部との併願の可能性が高い学部を対象とし、同一試験日において、1つの入試方式・型を使い、異なる学部・学科間の併願制度を充実させた。これにより、一般入試では文学部以外の4年制文系学部で最大3出願することが可能となった。

● センター試験利用入試の充実

2011年度新設の政策学部、短期大学部こども教育学科において、センター試験利用入試を新規導入した。また、新たに4教科型・4科目型・5教科型など、各学部のアドミッション・ポリシーに基づいた多様な入試方式・型を導入した。

2 学生募集結果

公募推薦入試は、10,056件（対前年比100.1%）、一般入試は27,269件（対前年比104.2%）であり、2010年度（2011年度入試）に比べて志願者数増となった。大学入試センター試験を利用する入学試験においては、募集区分全体では、8,340件（対前年比111.7%）、募集区分別では、前期募集5,753件（対前年比107.0%）、中期募集2,187件（対前年比

123.4%）、後期募集400件（対前年比125.8%）となり、2010年度（2011年度入試）に比べて志願者数増となった。公募推薦入試、一般入試、センター試験利用入試の合計志願数は45,665件（短期大学部含む）（対前年比104.5%）であり、全入学試験志願数は48,317件（短期大学部含む）（対前年比104.0%）であった。

3 入学志願者募集活動

● 高等学校、塾・予備校訪問

入試部事務職員による訪問に加え、課長職位者訪問の拡充、部長・次長職位者訪問、事務職員の母校等訪問など、近畿及び周辺の重点地区を中心に、延べ1,276校（2010年度約1,100校）の訪問を行い、本学に対する認知拡大に努めた。

● 本学主催イベントの開催

本学の入試制度、教学内容、在学生の活動を高校生等に直接伝えられる機会として重視している「オープンキャンパス」は、2011年度において初めて大宮学舎でも開催した。これにより計7回（大宮1回、深草4回、瀬田2回）、合計14,483人の参加者（前年度12,999人）があった。

また、公募推薦入試、一般入試への出願促進を目的に開催する「入試直前対策講座」は、近畿の他、金沢、福井、津、米子、岡山、高松などにおいても開催した。また、東京においても東京オフィスと連携し「入試説明会」を実施した。

● 進学相談会、出張講義への参加

全国各地で開催される「進学相談会」には、入試アドバイザーの協力もあり173会場（前年度126会場）へ参加した。また、各学部教職員及び高大連携フェローによる「出張講義」や「学問分野説明会」についても積極的に参加し、全学体制で学生募集に取り組んだ。

● 北陸地区への重点的広報展開

北陸地区を学生募集重点地域と位置付け、学長室（広報）と連携し金沢・福井での重点的広報活動（CM展開、高等学校・予備校訪問、高校生対象イベント）を実施した。



都道府県別 志願・合格状況〈全入試形態合計（短期大学部を含む）〉

都道府県

◀出身高等学校の所在地で分類しています。

合格数
志願数

全体

14,264
47,121

●外国人留学生入試の志願数・合計数は含みません。

